

めざす子ども像

地域とのかかわりを大切にする子・自分を大切にする子・なかまを大切にする子・学習を大切にする子

取組目標

地域と学校園、保護者との連携を深め、地域と学校園が連携し協働した取組を充実させるとともに、ボランティアスタッフとして地域人材を積極的に活用する。

今年度の取組紹介

今年度は、コロナ感染症対策のため、計画した取組の多くが中止となりました。しかし、このようなコロナ禍の中でも、済美小学校では、感染症防止対策を行い地域の方々と共に「しめ縄とんど大会」を行うことができました。普段の学習では、なかなか体験することができない「とんど焼き」という日本の伝統行事を体験することができました。

また、済美南小学校では、子どもたちが安全に登下校できるよう「登下校見守り活動」を行っていただきました。歩いている子どもを見つけると、「おはよう！」「いってらっしゃい！」と、地域の方々がいつも元気いっぱい声かけをしてくれます。子どもたちが安全に登下校できるよう、危険箇所に立って見守ってくださっているだけでなく、もうそろそろあの子が通るな、今日は少し遅いななど子どもたちのことを本当によく知ってくださっています。また、子どもたちの歩く様子や表情に合わせて優しい声掛けをしてくださり、子どもたちの心までも温かく見守ってくれています。



【しめ縄とんど大会】



【登下校安全見守り活動】

今年度のまとめ

子どもたちは、地域の方々の「子どもたちのために」という思いのもと、伝統行事を体験し地域の方々と触れあったり、地域の方々に見守られたりすることで、自分の住む地域や人々を愛する心を育てる良い機会となりました。

地域の方々による「地域の子は地域で育てる」という意識のもと、学校と協働した取組を今後さらに発展させようと考えています。

来年度に向けて

今年度までの事業を検証しより発展させることで、地域と学校園、家庭の連携をさらに強いものにしていきたいと考えています。また、地域人材の活用については、地域との連携を深めることで、新たな人材の発掘に取り組んでいきたいと考えています。

めざす子ども像

地域とのかかわりを大切にする子・自分を大切にする子・なかまを大切にする子・学習を大切にする子

取組目標

地域の方との関りを通して、生徒自身が必要とされている存在であることを認識させ、自尊感情の高めることで、学習への意欲の向上と規範意識の育成につなげたい。

今年度の取組紹介

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、キャリア教育としての「職場体験」などの各種体験学習については中止せざるを得ない状況となり、全ての取組を実施することはできませんでした。

しかし、本校が長年にわたって取り組んできている学習活動支援事業として学習意欲の向上と基礎学力の定着を図るための放課後学習会「わかるわかる学習会」には重点的に取り組みました。

「わかるわかる学習会」では、基礎学力の定着を図る「こっこつコース」、発展的な学習に取り組む「どんどんコース」に分かれて学習に取り組んでいます。生徒たちは、持参した問題集などを使って学習したり、生徒一人一人に配付されたタブレットを使って学習に取り組んだりしています。タブレットには「みんなの学習クラブ」アプリを導入し、小学校の学習内容からの復習ができるようになっています。自分の自学自習を基本としますが、大学生を中心としたボランティアスタッフにアドバイスをもらいながら熱心に学習に取り組んでいました。



今年度のまとめ

学ぶ意欲のある生徒からの「勉強がわかるようになりたい」という思いを受けて始まった「わかるわかる学習会」も10年以上続いています。生徒たちは、ボランティアスタッフとともに学習に取り組み、「勉強がわかるようになった」と実感するとともに、自身が芽生え、学習意欲の向上につなげることができました。また、タブレットを使っての学習は、生徒たちが自分のペースで学習するのに有効な手段となりました。

来年度に向けて

今年度の取組への成果と課題をふまえ、来年度も「わかるわかる学習会」や今年度実施できなかった「各種体験学習」などの学習活動支援事業、「出前で部活」などの地域交流事業に引き続き取り組んでいきたいと考えています。

めざす子ども像 **地域とのかかわりを大切にする子・自分を大切に
にする子・なかまを大切に
にする子・学習を大切に
にする子**

取組目標 **済美の町と人、そして奈良の町と人と関わる体験活動を行うことで、
地域に誇りを持つ取組を進めていく。**

【今年度の取組紹介】

全学年 「読み聞かせ」

コロナ禍でありましたが、感染症防止対策をきっちり
行い地域の方々に読み聞かせ活動をしていただきました。
子どもたちは、この読み聞かせ活動を通し、本に対する
世界を広げることができました。教卓にテーブルクロス、大
きな蠟燭、ぬいぐるみ等の演出で物語の世界へ誘う様々
な工夫をして下さいました。この読み聞かせ活動を通して
本の楽しさを知るとともに、思いやりの心も育てて
いただきました。



全学年 「せいびの時間（大規模清掃）」

地域の方々と「せいびの時間」に取り組みました。地
域の方々から子どもたちは草の抜き方の基本等も教
えていただきました。子どもたちは地域の方々とコ
ミュニケーションを取りながら、学校が美しく変
わっていく様子に達成感と満足感を感じ、こ
ころ豊かになる時間となりました。
地域の方々、本当にありがとうございました。

**【今年度のまとめ】**

今年度のまとめ

今年度も、「学校は、地域と連携して、教育を進めよう
としている」という項目で評価をいただきました。地
域の方々の支援・協力のおかげで、多くの児童が自
分たちの住む地域に愛着を持ち、誇りに思うこ
ころを育んでいます。

【来年度に向けて】

これからも、地域連携を大切に、児童の心を豊かに
育み、「済美・奈良を誇りに思う子ども」を育
てる取組みを進めていきたいと考えています。

めざす子ども像

地域とのかかわりを大切にする子 自分を大切にする子 なかまを大切にする子 学習を大切にする子

取組目標

大安寺っ子、地域で学び、つながろう

今年度の取組紹介

今年度も昨年度に引き続き、地域交流事業として「大安寺から学ぶ」に取り組みました。新型コロナウイルス感染症予防対策のため活動する内容もできるだけ少人数で作業・活動などを実施することとなりました。そのような中でも地域の方々との出会いや関わりを通じて、交流を深め、体験学習ができました。

5年生は、「米作り」に取り組み、田植えから稲刈りまでを体験し、収穫したお米をいただきました。

さらに、教育環境の整備や子どもたちの登下校の安全確保のための見守り活動に、地域の方々が積極的に関わってくださいました。今年度、子どもたちのほうから率先してあいさつが増えたという声が多くありました。



【5年 稲作体験】

今年度のまとめ

今年度も年間を通じて、地域の方々のご協力をいただき、校庭や中庭の環境整備ができました。コロナ禍の中で、児童は、様々な活動が制限された学校生活を過ごすこととなりました。そのような中でも地域の方々とのできることを考えて、取組を進めてまいりました。学習活動支援事業では、児童が閲覧した図書の本を一冊一冊消毒していただきました。また、図工科や家庭科の授業での学習補助にも入っていただき、丁寧にアドバイスをいただくことで児童の活動が広がりました。

さらに、教育環境支援事業として、運動場の草刈りや窓ふきといった活動を通して、地域の方々との関わりを充実させて取組を行いました。

来年度に向けて

新型コロナウイルス感染症予防対策を実施しながら、地域の方々と共に事業に取り組んで参ります。地域の方々と学校がともにできることを考えて取組をしていく必要があります。ICT機器を活用した新しい交流も取り入れながら、校区・地域の様々な方々とのつながりを大切にしていきたいです。

また、地域の事や伝統・文化について学び、地域社会から学ぶことの大切さを身につけ、児童自身が大安寺の地域について、誇りを持って語れるように、育んでいきたいと考えています。

めざす子ども像

地域とのかかわりを大切にする子/自分を大切に する子/なかまを大切にする子/学習を大切にする子

取組目標

地域とのふれ合いを通して、郷土愛やコミュニケーション力を育む。また、事業での関りを通して、子どもと地域、学校と地域、地域同士のつながりを深めていく。

【今年度の取組紹介】

6月からの学校再開を前に、校門をさわやかな済南ブルーに塗っていただきました。地域の方々のエールが子どもたちに伝わったようで、とても良い笑顔で登校していました。今年度も教育環境支援事業において、たくさんの地域の方々が集まってくださり、花壇やプランターの手入れ、樹木の剪定等をしていただきました。年間を通してきれいな花で子どもたちを迎え、見守り続けてくださっています。

毎年5年生が稲作体験を行っています。今年も田んぼ作りから、田植え、稲刈り、脱穀までを丁寧に指導していただきました。水の管理や日々の稲の状態の観察、これだけがんばっても収穫できる量はこれだけなのかと、お米をすることの大変さを知りました。また、地域の方の物作りに対する思いや、知識・経験にすごいなあと感心しきりの子どもたちでした。

【環境整備・校門のペンキ塗り】



【稲作体験・稲刈り】



今年度のまとめ

コロナ禍で地域の方々と一緒に行える活動が制限されましたが、地域の多くの方がこんな状況だからこそ子どもたちのために何かできることはないかと尽力していただきました。安全見守り、学校の環境整備や図書室の環境整備と地域の方々に支えられていることをしっかりと子どもたちは感じ取っていました。学校と地域が協力して積み重ねてきた取組を今後も続けていきたいです。

来年度に向けて

地域の子どもの健全育成のため、新型コロナウイルス感染症予防対策をしながら今までの「チーム済南」の活動を続けていきたいです。また、ICTを活用して地域の方とのつながりを大切にしてけるよう考えています。ホームページや学校便りを活用し取組や成果をより積極的に地域に向けて発信していきます。

めざす子ども像

- ・ 地域とのかかわりを大切にする子
- ・ 自分を大切にする子
- ・ 仲間を大切にする子
- ・ 学習を大切にする子

取組目標

子ども達にとって地域とのつながりを意識できるふれあい活動事業を中心に、様々な経験や体験を通して地域とのつながりを強く感じられる取組を行う。

【今年度の取組紹介】

今年度はコロナウイルス感染防止のために、いくつかの行事を中止縮小しなければなりませんでしたが。しかし本園ではこれまで大切にしてきた取組があります。

◆まず、『ならまちたんけん』です。今年度も地域の方と一緒に、安全指導・案内をしてもらい、「音声館・庚申堂コース」と「元興寺・興福寺コース」の2回実施しました。子ども達は地域の方からその由来や言い伝えを聞き、興味を持って見ていました。身近にある地域の良さを見たり聞いたり体験したりすることができました。また、保護者も一緒に参加する姿が見えています。今後も、子ども達にとって、地域の方々が身近に感じ取れるものにしていきたいです。



◆次に『新年を祝うお茶会』です。子ども達にとって日本の伝統文化に触れる体験です。地域の方々が、フルートと琴の生演奏を聴かせてくれます。続いて、地域のお茶の先生に作法を見せてもらったり、お茶の点て方を学んだりしています。その後、子ども達はお茶を点てて味わいます。緊張しながらも、「むずかしかった。」「にがいけど、おいしかった。」「お菓子はおいしい。」などと、感想を出していました。



【今年度のまとめ】

子ども達にとって、地域とのつながりを意識できる活動（「ならまちたんけん」・「新年を祝うお茶会」・「親子花苗植え」・「絵本のよみ聞かせ」・「子育て支援」・「運動あそび・サッカークラブ」・「昔遊び」等）を今年度も地域の方の支援をいただきました。地域の方々とのかかわりを通して、子ども達に豊かな心が育ってきています。また、自分たちで遊びや生活を進めていこうとする気持ちを持てるようになってきました。保護者からは、「ならまちたんけんは地域の方から貴重な体験をさせてもらっている」という意見が増えてきています。子ども達が今後もたくさんの経験から、思いやりの心・挑戦する心を持てるようになってくれたらと願っています。

【来年度に向けて】

地域の方々から多くのことを学び、引き続き幼稚園が地域の子育て支援の拠点となるよう、取組の精選を含めて、連携をさらに深めていきたいと考えています。

めざす子ども像

○地域とのかかわりを大切にする子
○自分を大切にする子
○なかまを大切にする子
○学習を大切にする子

取組目標

家庭・地域・幼稚園が一緒になって子育ての大切さや楽しさを感じる

【今年度の取組紹介】

地域交流事業として、PTA さんとの共催で「幼稚園まつり」を行いました。5歳児は、お祭りを楽しみに、友達と力を合わせて、神輿を二基作りました。昔から伝わる保護者の方が作られ改良されてきた大きな神輿も用意され、初めて見た4歳児は大喜びでした。地域の方に大きなうちわを振ってもらったり、太鼓をならしてもらったりしながら、「わっしょい!」「わっしょい!」とお神輿を担いだり、ひっぱったりしました。園庭では、PTA さんが準備してくれた、まとあてや、さかなつり、くじびきなどのコーナーあそびを楽しみ、ピロティイでは、保育者と一緒につぼっくりと紙コップを使って、けん玉をつくり遊びました。子どもたちは、遊びのコーナーを繰り返し回り、楽しい時間を過ごすことができました。



【今年度のまとめ】

今年度は、コロナ禍での事業となり、計画していた事業の中で実施できなかったものが多くありました。長年継続してきた、地域の万年青年クラブの方とのふれあい会や幼稚園祭りでの地域の方との交流の場をもつことができなかったことは、とても残念です。しかしながら、地域の方には、近くのコスモス畑に招待してもらい、コスモスのトンネルをくぐったり花を摘ませてもらったりしました。また、園庭をきれいに整備してもらったり、子どもたちの遊んでいる様子を見て声をかけて頂いたりして、心温まることも多くありました。子どもたちが安全に安心して経験できる事業となるように、保護者や職員と綿密に話し合い、今まで継続して行ってきた、活動一つ一つの意味や内容を深く考える一年となりました。

【来年度に向けて】

コロナ禍でも様々な体験ができるような事業内容を検討し、臨機応変に内容や時期を変更できるようなゆとりと柔軟性をもって実施していきたいと考えています。

地域の方と、触れ合いの場を直接もつことができない場合には、気持ちが温かくなったりやさしさを感じたりすることが出来るような事業内容や保育内容の工夫をしていきたいと考えています。